

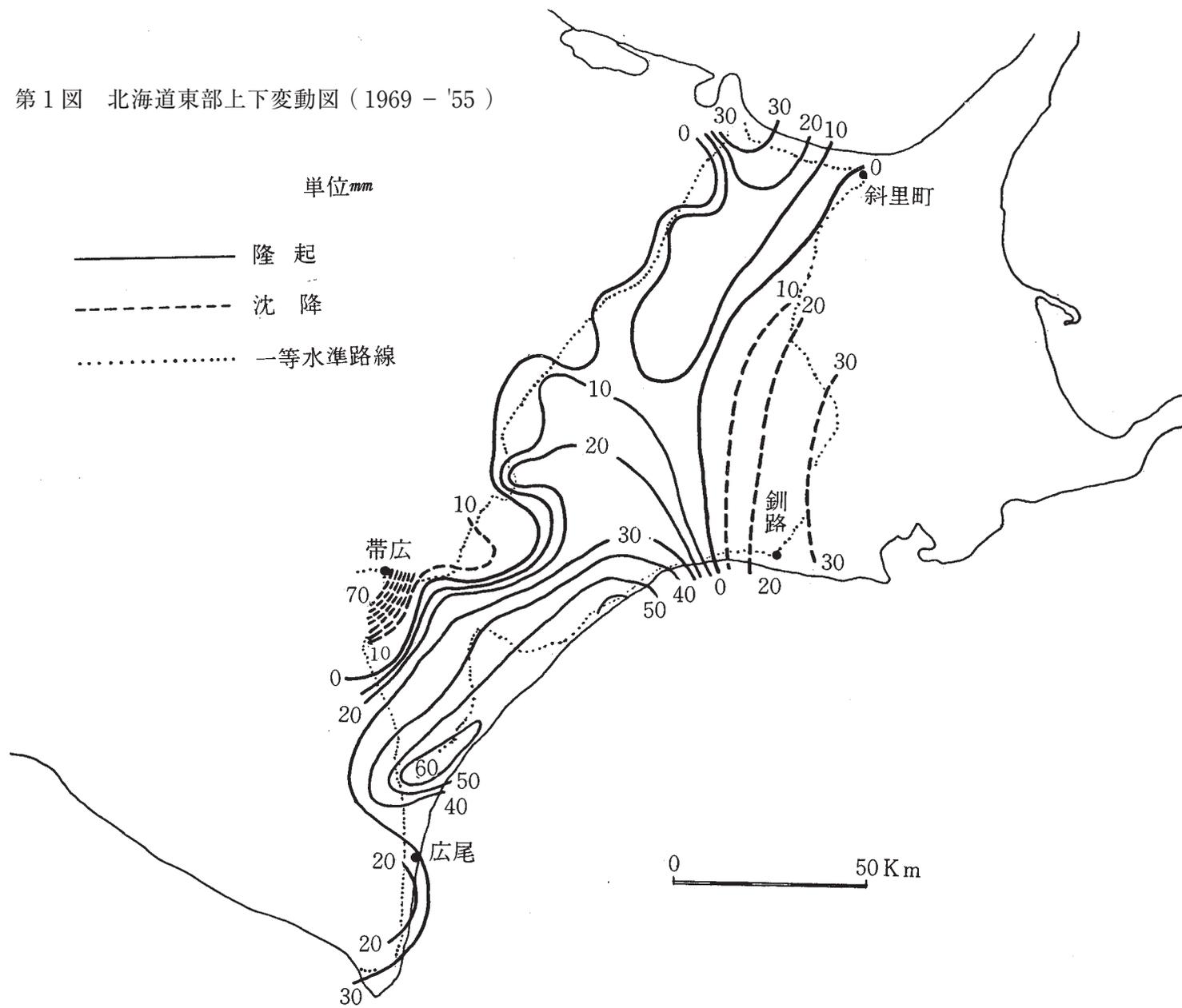
1 - 3 北海道東南部の上下地殻変動

国土地理院地殻活動調査室

1970年1月21日、北海道南部広尾附近で $M = 6.7$ 程度の地震が発生した。震源は、 $42.3^{\circ}N$, $143.3^{\circ}E$, 深さ約50kmとのことである。この地方は最近では1955年および1969年に一等水準測量が実施されているので、この地震に関連する前兆的地殻変動の有無を見るため第1図に示した路線について過去14年間の変動分布を求めて見た。この図では斜里町にある交45水準点を仮不動点としたが、エリモ岬から釧路にいたる太平洋沿岸部に隆起が見られる。特に震源のわずかな東部に2cm程度の隆起の目玉が見られるが、あるいはこれが前兆的地殻変動であったのかも知れない。今回の地震は中級であり、深さが50kmと地殻変動の立場からはやや深いことを考慮すると期待される変動もこの程度の量であるのかも知れない。震源地の北方、帯広市周辺に見られる顕著な沈下はおそらく泥炭地特有に見られる沈下と思われる。

また釧路以東の全般的な沈下現象は内陸北北西方向への水平変動（地震予知連絡会会報第2巻, 3項参照）とあわせ、最近のプレートテクトニクスからの地殻変動モデルを支持する様に見られる。第2図はそれぞれ内陸に相対的な太平洋沿岸部の地殻変動の時間的経過を表わしたもので釧路-根室地方の過去60~70年におよぼほぼ一様な南下り運動が注目される。

第1図 北海道東部上下變動図 (1969 - '55)



第2図 北海道地方一等水準点経年変動図

